

ともしび

編集発行

第55号

富山県立八尾高等学校

教育情報部・図書委員会

富山市八尾町福島 213

TEL 076-454-2205

令和8年2月28日

「拓く」挑戦と 「マネジメント」のサイクル

教頭 嶋谷 直子

令和7年10月上旬に2人の日本人科学者がノーベル賞を受賞したという嬉しいニュースが駆け巡りました。ノーベル生物学・医学賞を受賞した坂口志文さん、ノーベル化学賞を受賞した北川進さんですが、共に半世紀にわたる努力が認められての受賞となりました。北川進さんは12月の記念講演で、中国の思想家荘子の「無用の用」という考え方を紹介し、人が役に立たないと振り向かないものの中に価値を見出し、その価値を「拓く」べく五十年歩み続けたと話をしておられます。「拓く」は、開拓するという意味ですが、本校の校訓「高啼く理想、道を拓かん」やスクールポリシーのキーワード「自ら拓く」「仲間と拓く」「社会で拓く」としても使われています。生徒のみなさんには、学習、部活動などにおいて「拓く」挑戦を続け、将来社会で貢献できる人間になってほしいと思います。

現代は、技術や社会構造が目まぐるしく変化する「VUCA」の時代と呼ばれています。未来の予測が難しくなる中で、「拓く」ことと、自分自身を「マネジメント」することが生徒のみなさんには求められていると私は思います。「マネジメント」とは、勉強や部活動、人間関係などから何を学び、何を学ばなかったかを明らかにし、次のステップではどのように改善していくかを粘り強く考え、実行して

いくサイクルです。約15年前にベストセラーとなった「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら」は「マネジメント」をわかりやすく教えてくれた物語でした。高校野球部の女子マネージャーが、経営学の巨人ピーター・ドラッカーの経営書「マネジメント」を読み、その教えを部活動に応用し、弱小チームを甲子園に導こうとする物語です。最近、この本を読み返しましたが、ドラッカーの教えは、企業経営だけでなく、私たち自身の日々の活動、そして人生の目標達成にこそ活かせる理念であると思いました。

定期テストで目標点を達成するための学習計画、部活動において、限られた練習時間の中での効率的な練習メニューの立案、友人や先生方とのより良い関係を築くためのコミュニケーションの取り方を考察し実践することは、「マネジメント」に他なりません。計画通りにいかないこと、予期せぬ困難に直面することはありますが、「拓く」挑戦を忘れず、失敗から何を学び、次の一步をどう改善するかという「マネジメント」を繰り返すことで、私たちは初めて成長できるのです。



令和7年度 教養講座

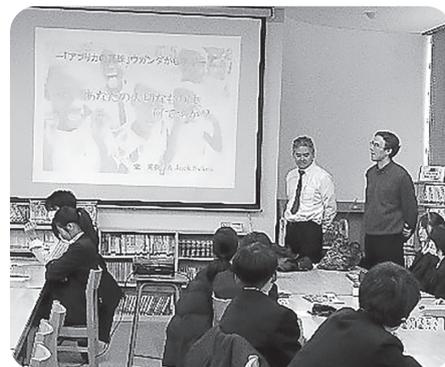
「異文化講座」



- ❖ 講師 栄先生、ジャック先生
- ❖ 期 日 12/18(木) 14:40 ~ 15:40
- ❖ 場 所 図書館

本校教諭の栄先生、ジャック先生から「異文化講座」と題して、お話をいただきました。

栄先生、ジャック先生が実際に足を運ばれたという「ウガンダ共和国」の人たちの生活や考え方を教えていただき、日本との感覚の違いを知ることができました。ウガンダ共和国は発展が進んでいる国ではなく、道路やトイレなどの整備もままならない様子ですが現地の人は人懐っこく、観光客である先生に温かく接してくれたそうです。

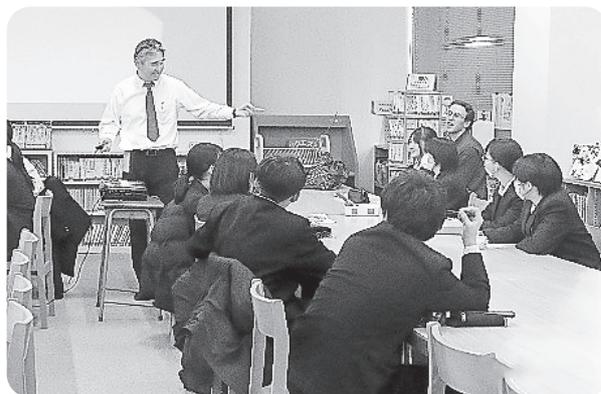


また、自分の大事な物を書く、ダイヤモンドランキングを体験し、ウガンダ共和国の人たちが書いたものも実際に見せてもらいました。私達日本人とウガンダ共和国の人々ではランキングに載るものに違いがあり、生活や考え方の違いが浮き彫りになりました。



感想

- ・日本と全く違う環境について知ることができて面白かったです。
- ・実際にその地域に行くことで、思い込みや偏見を無くすことができました。
- ・水や安全があたり前にあることのありがたさを改めて感じました。
- ・日本の常識から考えると悪く見える部分でも、そこで生まれ育った人からしたら当然であることもあと知りました。
- ・自分たちの大切なものも、国によって違うんだなとわかってよかったです。



令和7年度 校内読書感想文コンクール

(第71回青少年読書感想文全国コンクール校内選考) 最優秀賞
21H 白石 心和

「生きることの重さ」

(「傲慢と善良」辻村深月：朝日新聞出版)

あの日、書店でこの本を手を取った自分を酷く後悔した。重く、深く、この胸にのしかかる嫌悪感を二度と感じたくない、本当にそう思った。彼らの価値観はごくありふれたものであり、辻村深月の見事な描写力がより一層私に既視感や共感を与えた。それ故彼らの気持ち、恐ろしいほど自然に行間からも読み取れた。そうして辻村深月の手によって私は、西澤架、坂庭真実と一心同体させられた。私は架でありながら真実を理解する。逆も然り。むせ返るくらい感情を突きつけられて漸く二人の関係に整理がついた。彼らが互いを理解するには、互いを構成する土台がかけ離れている、婚約者同士であるにも関わらず。架は水槽を外から見ながら、真実が水槽の中で生きていた。常に自分は選べない人間。彼女を理解出来ている、と、疑おうともしない。架の声なんて水がかき消してしまうのに、絶対なんて保障出来ないのに。架は傲慢で、不器用で、それでも確かに真実を愛していたのだ。対して真実は水槽から出たことがない箱入り娘だった。真実は自分の意志を持って決断したことが少なく、ほとんど母親がその役割を担っていた。親というもの、きつと子供が可愛くて仕方がない。出来ればその成長をずっと近くで見たいし、出来れば良い人生を歩んで欲しい、そう思うのだろう。真実の母親もそう願う人だった。安定した生活を送れるように就職先は母親が決め、幸せになれるようにお見合い相手も当然母親が決める。なんとも善良で傲慢な人だろう。娘を想う善意や「母親」という役割を全うする強い意志が、



逆に娘を縛り続けた。心苦しかった。善良で在りたい人が無自覚のうちに善良でなくなってしまう姿が。そしてその姿が自分の鏡であったことが。-小学生時、クラスで泣いている子がいたから思わず声を掛けた。私がなんとかしなきゃ、そんな風に。なんで泣いているのか知りたかった。状況が良くなるような提案をしたかった。でもその子は首を横に振って「大丈夫。」そう一言だけ言った。何か間違えた事はすぐに分かったけれど、何を間違えたのか分からなかった。今考えれば私は紛れもなく傲慢だった。彼女自身の心配ではなく、日常の空間を取り戻したい、歪みを解決したい、そんな自身の欲で言動した気がするから。私は心からでない心配で彼女を傷つけてしまったのだと漸く気付くことが出来た。-そうして育てられた真実は、自意識過剰な「いい子」になった。真実は架に「私だけを見て。」と求める。ストーカーに追われているという嘘をついてまで。世を知らない真実が三十歳で上京してから経験する事は架にとって、いや周囲の人にとっても何気ない事であるのが、さらに真実を孤独にした。どうしようもない、本当にどうしようもない架と真実の関係がもどかしかった。ただただ色々な後悔や絶望を感じさせる、切なさの多い小説だった。

「傲慢」と「善良」。これらが人に与える影響は計り知れない。深く傷つけたり、傷つけられたり、誰もが持つ二つの性質だからこそより理解に苦しむ。だが私達はその傲慢さと善良さに向き合っていかなければならない。これはもう人間という自由な生物であることの代償だと割り切って。将来も今と変わらずその感傷にもまれることに少し絶望したが、このことを知れたことが強さとなって、巡り巡ってくれることを少しだけ期待している。

令和7年度 校内読書感想文コンクール入賞者

1 学年

最優秀賞

12H 澤村 円香「当たり前とは何か?~コードから学ぶ~」
(「コード」のぼくが見る世界]五十嵐大:紀伊国屋書店)

優秀賞

13H 江上 紅花「14歳の心情」
(「カラフル」森絵都:文藝春秋)

佳作

14H 佐野 円香「『空への助走』を読んで」
(『空への助走~福蜂工業高校運動部』壁井ユカコ:集英社)

2 学年

21H 白石 心和「生きることの重さ」
(「傲慢と善良」辻村深月:朝日新聞出版)

22H 福村 彩華「自分の天下を目指して」
(「成瀬は天下を取りに行く」宮島未奈:新潮社)

22H 長谷川和也「困難の中でも前向きに生きる人々の姿」
(「虹3ねがいとねがいをむすぶはし」北日本新聞社:北日本新聞社)

*審査の結果、第71回青少年読書感想文全国コンクール・富山県審査会の課題読書部門に12H澤村円香さんの作品を、自由読書部門に21H白石心和さん・22H福村彩華さんの作品を、出品することになりました。

図書委員会の活動

図書委員会ビブリオバトル

委員会内で学年ごとに分かれて、ビブリオバトルを行いました。ビブリオバトルとは・・・を学び、学年間の交流もでき、有意義な時間を過ごせました。初めて体験した1年生は、2分間本を紹介することの大変さを実感したようです。



My favorite book ～お気に入りの集めた本～

9月22日(月)・23日(火)に行われた高啼祭で、図書委員会は「My favorite book」という企画を行いました。自分の好きなテーマや世界観を一冊の本にして表現するものです。

私はスイーツをテーマにした飛び出す絵本風の作品を作りました。ケーキやいちごなどのモチーフを使い、ページを開いた瞬間に楽しい気持ちになってもらえるよう、立体感や配置を工夫しました。奥行きや重なりを考える作業は難しく、試行錯誤の連続でしたが、その分、自分らしさを表現できた個性溢れる作品に仕上がったと思います。完成したときの達成感は大きく、本を読むのが好きな人だけでなく、ものづくりが好きな人にもぜひ挑戦してほしい活動だと感じました。



ミニ移動図書館

読書期間中(10/27~11/9)の企画として「ミニ移動図書館」を行い、図書館の本を各教室に2週間設置しました。各クラスの図書委員が選んだ本です。普段はあまり図書館に足を運ばない人でも、教室に本が置いてあることで自然と目に入り、気軽に手に取ってもらえたと思います。休み時間に本を読んでいる人や、友達同士で内容について話している様子を見ることができ、本が会話のきっかけになることを実感しました。また、自分が選んだ本に対して「面白そう」「今度借りてみたい」と言ってもらえたことが嬉しく、読書の楽しさを共有できたと感じました。この取り組みを通して、読書は個人の楽しみだけでなく、周囲とつながるきっかけにもなると学びました。



校外選書

期末試験最終日の7月2日と12月3日に、紀伊國屋書店で校外選書を行いました。校外選書では、図書館に置きたい本を各自で2冊選びました。書店には小説だけでなく、進路に役立つ本や経済について学べる本など幅広いジャンルの本があり、どれを選ぶかとても悩みました。自分だけでなく、他の生徒も読みやすく役に立つ本を意識して選ぶのは大変でしたが、その分、責任感を持って取り組むことができました。また、普段はあまり手に取らないジャンルの本にも目を向ける良い機会になりました。今回の校外選書で、図書館が私たちの学びを支える大切な場所だと改めて感じました。



図書委員が選ぶ各分野の**推し本**

0分野

『富山県のひみつ』
松本義弘：学研プラス
090 マ



富山県に住んでいても、知らないことがたくさんあると思います。そんなときにこの本を読むことで、富山県の自然や鉄道などを知ることができます。富山県のことをたくさん知ることによって富山県のことをもっと好きになると思います。

1分野

『漫画 君たちはどう生きるか』
吉野源三郎：マガジンハウス
159.7 ヨ



主人公の少年コペルくんが毎日の出来事、友達との関わりを通して「人としてどう生きるか」を考える物語です。思いやり、勇気などを優しい言葉で教えてくれます。漫画で書かれているので、小説を読むのが苦手な人にも読みやすい一冊です。

2分野

『いのちのリレー』
川久保美紀：ポプラ社
289.



末期がんで余命わずかと言われたのにも関わらず、最期まで命の尊さを伝えようと教壇に立ち続けた一人の先生のノンフィクション物語です。この本は「命とはなんなのだろう」と深く考えさせられ、一日一日大切に生きていこうと思えます。

3分野

『今までで一番やさしい経済の教科書』
木暮太一：ダイヤモンド社
330 コ



経済学の基礎を初心者向けに解説しています。難解な専門用語や理論を使わず、日常的な事例を交えて経済の仕組みをわかりやすく説明。例えば、消費や生産、流通など身近なテーマを通じて、経済の全体像を直感的に理解できます。

4分野

『家で死のう！』
萬田緑平：三五館シンシャ
490.1 マ



「医療任せにしない自分らしい死に方」、「在宅で最期を迎えるという選択」などについて、現役緩和ケア医がとてと丁寧にご教授してくれます。自分の生と死を見つめなおす本です。

5分野

『はじめて作る おうちごはん』
広沢京子：角川SS
596.4 ヒ



洋風、和風のいろいろなレシピがとても分かりやすく揃っており、見た目もよく、味もおいしいご飯が作れます。1つ1つの工程が写真付きで載っているので料理に不慣れな人も実践しやすいです。

6分野

『100円のコーラを1000円で売る方法』
永井考尚：中経出版
675.7 ナ



100円のコーラでも売る場所や状況、意味づけによって1000円の価値を持たせられることが説明されています。ただ高く売るのでなく、相手が「欲しい」と思う理由を作ることが大切だと分かりました。見方を変えたと価値が変わるのだと気づかされました。

7分野

『私が見た未来 完全版』
たつき諒：飛鳥新社
726.1



予知夢で話題の漫画家・たつき諒が描く、夢と現実が重なる体験漫画。災害の予言って本当？完全版で新情報も追加され、未来や備えについて考えさせられる。ちょっと怖いけど引き込まれます。

8分野

『「たった一言」の心理術』
多湖輝：三笠書房
809.4 タ



言葉の伝え方によって人に与える印象は全く異なります。本書では、日常の会話に潜む心理術を具体的に解説します。たった一言によって、自分自身の武器にも鎧にもなるのです。人間関係のストレスを抱える人におすすめしたい。

9分野

『すべての恋が終わるとしても』
冬野夜空：スターツ出版
913.6 フ



恋の終わりに残る想いや痛みを描いた短編集です。恋愛や別れで切なさを経験した人の心に寄り添う一冊です。今の「私」に必要な言葉がきっと見つかります。読みやすいので、本を読むのが苦手な人でも大丈夫です。

貸出ランキング 上位本



今までで一番やさしい
経済の教科書



夏へのトンネル、
さよならの出口



キングダム



宇宙一わかりやすい
高校化学



恋はいつも少し足りない



汝、星のごとく



空飛ぶタイヤ



令和7年度 図書委員会の1年間の活動

- 4月 新入生図書館オリエンテーション
生徒図書委員会
 - 5月 図書委員ビブリオバトル
 - 7月 校外選書①
蔵書点検
「My favorite book」製作開始
 - 9月 高啼祭「My favorite book」展示
 - 10・11月 読書週間イベント ミニ移動図書館
 - 12月 校外選書②
第1回教養講座「異文化講座」
図書委員会「ともしび」第55号編集委員会・
原稿作成
 - 1月 「ともしび」作成
 - 2月 「ともしび」55号発行
- ※毎月 図書館だより発行 月毎の飾りつけ
 ※毎日 カウンター当番 書架整理
 ※各クラス HR 読書会・ミニビブリオバトルの準備・進行

令和7年度 図書委員会

(◎は委員長、○は副委員長)

11H 加藤 綾夏	杉林 真奈
12H 澤山 未来	清水 芭奈
13H 笹山 心路	山田 優菜
14H 伊藤 らむ	経田 侑里
21H 豊倉 蓮	矢田信之介
22H 大泉 蒼介	舟田 圭佑◎後期
23H 齊藤 珠姫	杉木 花望○後期
24H 竹本 琴美	田畑 亜依
31H 岡田 玲威◎前期	浅名 慧太
32H 東 くるみ	大友 佳奈
33H 久和 圭太	橋爪 友紀
34H 渡辺 悠暉	窪 健史郎○前期

編集後記

今年は3年に一度の高啼祭が開かれ、図書委員会では、自分の趣味や好きなことを本にして表現する「My favorite book」を実施しました。またもっと本に親しんでもらおうと思い、新しい試みとして各クラスの図書委員が選別した本を教室に配置する「ミニ移動図書館」を行いました。

これらの少しずつの活動で本の貸し出しが増えた時は嬉しかったです。そして、この「ともしび」を通して、図書委員会の活動を知ってもらえたらもっと嬉しいです。もし気になる一冊があれば図書館に足を運んでみてほしいです。

後期図書委員長 舟田 圭佑